

7 . 河川空間の現状

7 - 1 河川敷等の利用の現状

(1) 河川敷地の利用状況

年間利用状況

平成 12 年度に実施した「天塩川水系 河川空間利用実態調査」によれば、天塩川水系の年間河川空間利用者総数(推定)は、約 24 万人である。沿川市町村人口からみた年間平均利用回数は、約 2.4 回となっている。利用形態別では散策等が 82.8%と最も多く、次いでスポーツが 16.0%、両者で 98.8%を占めている。水遊びは 0.4%、釣りは 0.8%となっている。

平成 12 年度の 24.4 万人は平成 9 年度の 14.5 万人と比べ、約 9.9 万人、約 68%増となっている。理由として春季に雨天の日があり利用者が減少したが、夏季にイベントがあり、また、1 年を通しスポーツが盛んに行われていたからと思われる。

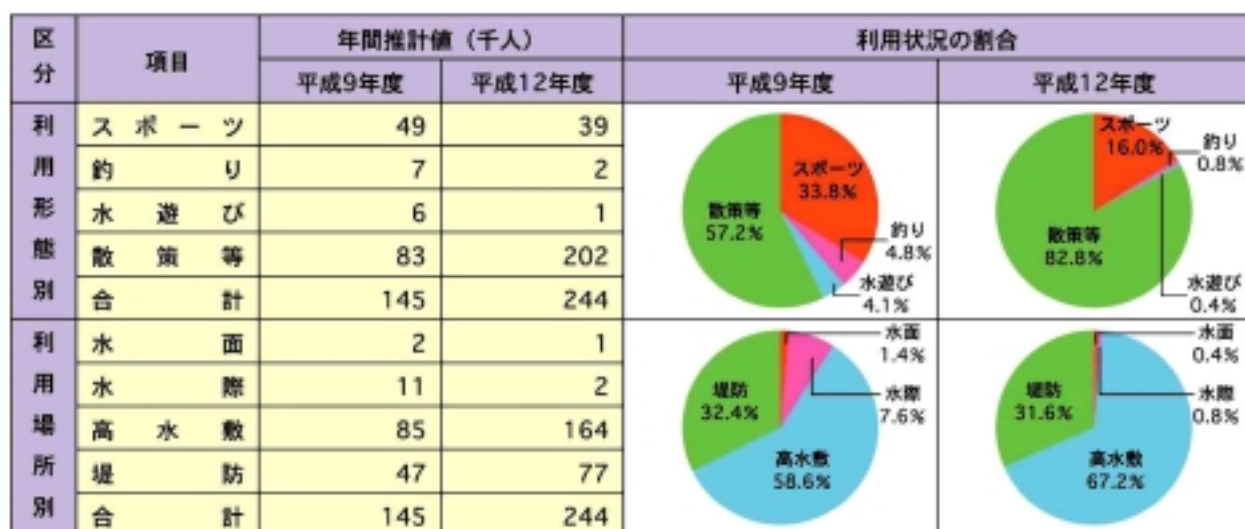


図 - 2 3 天塩川の年間河川空間利用状況

高水敷の利用状況

天塩川の河川利用は、上流から土別市、名寄市、中川町、音威子府村、天塩町の周辺は高水敷の整備が進み施設の利用が盛んであり、その他の地区では自然的利用が行われている。特に、旧河川敷地を利用した土別市のつくも水郷公園、天塩町の鏡沼水郷公園では休日にはスポーツ・散策など多くの人々に利用されている。また、河川利用施設が25箇所あり、いずれも無料である。

天塩川河川敷地の利用状況は、約1,037haの占有があり、このうち採草放牧地の占有が約531haで全体の約51.2%を占め、次いで公園緑地の占有が約89haとなっている。(表-15)天塩町、中川町、音威子府村、美深町、風連町、名寄市、土別市で河川緑地の整備がすすめられて、朝日町では岩尾内ダムの周辺を地域の交流の場として整備している。河川管理者においても、これらの地域計画と連携として、河川環境整備事業及びダム周辺環境整備事業により基盤整備を実施し、多くの住民に健康増進の場、憩いの場、イベント等交流の場として盛んに利用されている。

表 - 15 河川敷地の占有状況（直轄管理区間）

（単位:ha）

水系名 \ 占有面積	公園・緑地		運動場		採草放牧地		水 田	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
天 塩 川	32	89.45	2	1.42	253	531.49	70	41.15

畑		その他		合 計	
件数	面積	件数	面積	件数	面積
120	73.93	859	299.41	1,336	1,036.85

上・下流部の合計値（H13.3月現在）

7 - 2 河川の利用状況

上流部

朝日町では、岩尾内ダム湖周辺にキャンプ場、温泉、テニスコート等が整備され、釣り、カヌー等のスポーツ・レクリエーション活動の場として親しまれており、毎年開催される岩尾内湖水まつりには多くの人が参加している。また、天塩川の河川敷にローラースキーコースが整備され、隣接するジャンプ台やトレーニングセンターと併せ利用されている。

士別市では、天塩川の旧川を利用したつくも水郷公園及び周辺の天塩川河川敷地が河川公園として整備され、市民の健康増進及び憩いの場として利用されている。天塩川を中心としたイベントも多く開催され、天塩川まつりは母なる川天塩川に感謝する祭りとして、川舟みこしやいかだ下り等が行われている。



岩尾内湖水まつり



つくも水郷公園

中流部

風連町では、毎年、都会の子供たちとの交流（天塩川での川下り等）が行われており、現在、河川敷で子供たちが自然体験活動（カヌー体験、昆虫採取等）を行う場として水辺の楽校の整備が進められている。

名寄市では、名寄市街部の天塩川河川敷にパークゴルフ場、サッカー場、サイクリング園路等が整備され、市民の健康増進、憩いの場として利用されている。また、天塩川の旧川である智恵文沼が釣りやバードウォッチングの場として利用されており、現在、子供たちが自然体験活動（ヒブナ観察、野鳥観察等）を行う場として水辺の楽校の整備が進められている。

美深町では、天塩川の旧川である三日月湖を利用し、カヌーポート、オートキャンプ場や温泉等を配備した親水公園として美深アイランドが整備されており、年間約90万人（H9実績）が訪れている。また、天の川下りいかだコンテスト等のイベントが開催され、天塩川を通して活発な交流の場が展開されている。

音威子府村では、天塩川河川敷に隣接して天塩川温泉が整備され、多くの人が保養の場として利用している。また、温泉に隣接してカヌーポートが整備され、カヌー利用者も多く温泉を利用している。

中川町では、町民の交流・憩いの場として、天塩川河川敷にパークゴルフ場、イベント広場等の河川公園の整備を進めている。現在、対岸の河川敷にはカヌーポートが整備され、オートキャンプ場等が隣接することから、多くの人に利用されている。



智恵文沼野鳥観察会



天の川下りイカダコンテスト

下流部

天塩町では、河口部旧川跡を利用し、キャンプ場やオートキャンプ場、原生植物の散策道等の鏡沼海浜公園が整備されており、多くの人々の交流・憩いの場として利用されている。また、天塩川及び鏡沼海浜公園を舞台に天塩港シジミまつりや、天塩川花火大会や川下り等が開催され、多くの人々が参加している。

幌延町では、天塩川の旧川である約 30ha の三日月湖で「さと川づくり」を実施し、河川空間の再生を図っている。また、三日月湖周辺をスポーツ公園として利用している。

サロベツ原野では、ペンケ・パンケ沼やエゾカンゾウなど 100 種類以上の花が咲き誇るにサロベツ原生花園があり、毎年夏期には多くの観光客が自然散策を楽しむために訪れている。また、隣接する兜沼では多くの人々がキャンプや自然散策等を楽しんでいる。



鏡沼海浜公園



天塩港シジミまつり

その他

天塩川では、カヌー利用が盛んであり、全川にわたって各所にカヌーポートが整備されている。また、全国的なカヌーのイベントとして「ダウン・ザ・テッシ・オ・ペッ」が開催されている。上流の名寄市から河口までの約 150km をカヌーで下るもので、平成 4 年度から毎年開催されている。また、上流の名寄～音威子府間では '98 日本カヌーツーリング天塩大会が開催され、全道はもとより全国から約 400 人のカヌーイストが参加し、好評を博した。



ダウン・ザ・テッシ・オ・ペッ



図 - 2 4 天塩川における河川利用位置図